



# どうとくだより

富陽小学校

2025.11.21



今回のどうとくだよりは、3年生の実践を紹介します。

教材名は、「ないた赤おに」です。人間と友達になりたい赤鬼と、その願いを叶えるために悪役を演じる青鬼の友情物語です。教材の中に出てくる「青おに」の行動を通して「友情」「信頼」について考えました。

授業の終末には、「本当の友達とは、どのような友達か」について、思いを広げたり、話し合いながら考えを深めたり、さらに、自分自身を振り返ることもできました。

## 教材名『ないた赤おに』

### 【あらすじ】

村人と仲良くなりたい赤鬼の相談を受けた青鬼は、自分が村で暴れ、赤鬼がそれを助けることで村人からの信用を得るという作戦を考え、赤鬼を説得します。作戦は成功し赤鬼は人間と仲良くなりますが、その日から訪ねてこなくなった青鬼を心配した赤鬼が青鬼の家を訪ねると、そこには「君がこれからも幸せに暮らせるように」と旅に出ることを伝える手紙が残されていました。

### 【授業のねらい】

友達のことを心から思いやり、自分にできることを精一杯しようとする。



## 学習後のふり振り返り

ぼくは、本当の友達とはしたいことばかりをするのではなく、自分の気持ちと相手の気持ちをつなげて考え、それでいいかと考え、そのままでいいかを考えたら相手の気持ちが伝わるから、本当の友達になれると思いました。

本当の友達とは、自分のことばかりではなく相手のことも考えてあげられるのが本当の友達だと思いました。

この話を読んで、赤おには青おにのことを心配していて、青おには赤おにをしばいているのがこの話のいいところだと思いました。これからも友達を大事にしたいです。

助け合いと言ってもそんな一人がぎせいになる助け合いをすると、そのうち一人がいやな気持ちになってしまうから、何度もどっちがいやな気持ちにならないことが本当の友達だと思う。

本当の友達とは、青おにみたいに本当の本当にやさしい友達なので、自分じゃなくて友達をしあわせにさせてくれるヒーローのような友達だと思ったので、本当の友達を一生忘れないようにします。

本当の友達とは「困ったら助ける」「助け合う」ということや、いっしょに「協力」することだと思いました。わたしも本当の友達と「助ける」「助け合う」「協力」をしていきたいと思っています。

本当の友達とは、大親友でやさしいころをもって、友達のためなら何でもしてくれる助け合いのできる友達。ぼくはこれから青おにのように大親友でやさしい心をもっている友達のためならなんでもできる友達になりたい。

本当の友達とは、青おにだと思っています。どうしてかという、青おには自分をぎせいにして大好きな赤おにのことを思っているけど、赤おにはこんなに大好きな青おに対して「なんで自分をぎせいにするんだろう」とそんな気持ちになっていると思うからです。ぼくはこれから青おにのように心をやさしくしたいです。

今日の授業で分かったことは、何かがあったら助け合うのが本当の友達だと思いました。

自分のことより相手を優先したり、友達を助けたり、友達の相談にのったりすることを、今日からしようと思います。

僕は、友達に優しくするというのを頑張りたいです。どうしてかという、相手に優しくすると、相手も他の友達に優しくすることができるからです。

本当の友達とは、自分より相手に幸せになってほしいという関係だと思います。わたしは、青おにのように自分をぎせいにはできないけど、相談にのるくらいならできるから、自分のできるはんでがんばっていきなうと思いました。

本当の友達とは、相手を優先したり、助け合ったりすることができる友達だと思いました。

いままで本当の友達というのを知らなかったけど、このべんきょうをして、本当の友達は青おにのように自分はしたくないことでもゆうきをふりしぼって友達のためにがんばって全力で友達をすくうことが本当の友達だと思いました。

私はこれから友達がいても、いままでよりもみんなにやさしくて、思いやりのある自分が本当の友達だと思いました。それに、友達がおちこんでいたり、困っていたらすぐになぐさめてあげたいです。

私は、本当の友達とは、困っていたら助けることだと思いました。

本当の友達とは、その友達を自分より大切にしていることだと思います。

僕は、友達は助け合って、自分のことよりも友達をちょっと優先できるのが本当の友達だと思います。友達に相談とかもしてみたらもっと友達になれると思います。

本当の友達とは、友達のために自分が悪者になって友達とはなれてしまっても、友達がしあわせになればいいと思ってくれる友達だと思います。私はこれからも友達となかよくし、クラスが変わってしまっても、友達をわすれないようにしたいです。